



埼玉県舞踊協会ニュース

埼玉県舞踊協会
NO.51

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：中村 友美
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

『新年度に願う』

埼玉県舞踊協会会長
中村友美

2020年は何もかも開催予定の公演や行事が中止せざるを得ず意気消沈の一年でした。会員の皆様はどのような日々を過ごされたのでしょうか？新年より埼玉県舞踊協会は各事業が活動を再開致しました。

予防対策は役員会で審議を重ねる万全を期して備えております。コロナグラフの目次106では秋に開催(10/24)の「Moricee」やらかな風と森編と題した動画ネット配信の為、会場の国営武蔵丘森林公園にて若いダンサーの協力を得て数度撮影を行い配信しています。一年延期していたSTAGE1公演も6/12・13に開催を決定しコロナ感染予防対策を充分に踏まえ制作を進めています。

終える事が出来ませんでした。綿密に計画されたコロナ感染予防対策の諸注意を厳守し元気に溢れる素晴らしい作品を上演して下さい。皆様各位に感謝し厚く御礼申し上げます。

コロナ収束はまだ先が見えませんが新しい生活習慣を各々が守りそれぞれの活動を実現せねばならないと思えます。舞踊の創作表現は私たちの命、生きる力です。協会の皆様共に励まし合い舞踊活動を前進させて参りましょう！

新年度スタートにあたり会員の皆様(ご活躍を心より願っております)。

どの作品も工夫に満ち、個性的で、みな精一杯頑張っていました。【Aプロ】多数の出演者や持ち道具を存分に使い、さまざまな状況を超えて嫁入り、挙式したはずみの世界を、アイデアを込めて描いた窪内絹子作品「いちばん大切なこと」や、ねずみの嫁入りより、白い蝶が悪役黒アゲハたちをいじめられるが、多くの可愛い虫の願いで仲直り、そしていも虫にも美しい羽根が、とうまくまとめた文月玲の「バタフライ・ラブ」。

小林和加枝は「ひまわり」で、かわいい種から緑の芽に成長、自然の猛威など多くの試練を経て、一斉に花開く明るい世界を表現した。原島マヤは、大小多くの出演者を巧みに集団化し、機械的、人形的な動きから、ときに優雅に、またダイナミックに人生の輪廻を描いた「回転木馬の夢の途中」。

第53回バレエ・モダンダンスフェスティバルを終えて

制作担当：上田仁美・伊藤二枝
すゞきさよこ・柘沢寿美

昨年3月から延期となった第53回フェスティバルは、感染予防のため、各回ごとに観客入替制の3つのショートプログラムにて上演し、無事に終了致しました。客席は社会的距離を保つために定員数の50%とし、Aプロ302名、Bプロ309名、Cプロ269名のお客様がご来場下さいました。

感染予防対策として、スタッフ下見時の完全入替制、当日出演者へのマスクの配布、各楽屋に消毒液・ハンドソープ等の設置、各団体の楽屋入り時間の指定、会議室の利用、舞台出入りの一方通行、出待ち場所・時間の指定、ロビー・客席出入口の指定、休憩時に客席のひじ掛け手すり等を消毒、観客の連絡先の確保等を実施いたしました。

本番は、都合により12団体から11団体の出演となりましたが、バラエティーに富んだ楽しい作品の数々、エネルギーに満ちた感動の舞台となりました。今、この難局に立ち向かう中で、きつと様々な想いを馳せて迎えられた舞台だったのではないかと思います。各先生方と門下生の皆さんが共に創り上げた尊い作品に、心から bravo! 担当者一同、次回に向けて力を合わせて進んで参ります。

楽しい舞台、元気な子供たち。第53回バレエ・モダンダンスフェスティバル 舞踊評論家 うらわまこと

昨年3月からの延期ながらも、中止・延期になつてしまいましたが、今年は検温・消毒に、プログラムを3つに分けて席を空け、観客を入れ替えて3密を避けて行われました。

児童、ジュニアからシニアも加わるこの会の特長は、出演者にあわせて多彩な舞台空間を形成すること。そして発想や物語が見える分、さりげなく共感と感動を生むこと。

【Cプロ】吉田久木子「あらたな地へ」。民族的な合唱曲により、さまざまな集団が、時に指で方向づけ、時に列をなして、花を全員に広げ、新しい世界を目指す。井上美代子作品「rainbow」では、2組のポアント、チユチュの踊り子風のグループが、郷愁を感じさせる音楽で、その雰囲気を作りあげた。最後は山口弓貴子。三シルフィードより「第2幕のバド・ドウに群舞が加わる。若い主役2人もよく踊り、多くの群舞もしつかりと舞台を作った。藤井・上原モダンバレエスタジオは欠場」

①窪内絹子モダンバレエスタジオ

②文月玲バレエスタジオ

③和加枝舞踊モダンダンス研究所 (小林和加枝)

④マヤバレエスタジオ (原島マヤ)

⑤川名今朝美モダンバレエスタジオ

⑥バレエスタジオ レッツ (和泉加甫留)

⑦705 Dance Lab (菊地尚子)

⑧谷乃梨絵モダンバレエスタジオ

⑨吉田久木子モダンバレエ研究所

⑩井上美代子バレエスタジオ

⑪Y's Dance Company (山口弓貴子)

⑫Y's Dance Company (山口弓貴子)

「Cプロ」吉田久木子「あらたな地へ」。民族的な合唱曲により、さまざまな集団が、時に指で方向づけ、時に列をなして、花を全員に広げ、新しい世界を目指す。井上美代子作品「rainbow」では、2組のポアント、チユチュの踊り子風のグループが、郷愁を感じさせる音楽で、その雰囲気を作りあげた。最後は山口弓貴子。三シルフィードより「第2幕のバド・ドウに群舞が加わる。若い主役2人もよく踊り、多くの群舞もしつかりと舞台を作った。藤井・上原モダンバレエスタジオは欠場」

「第53回バレエ・モダンダンスフェスティバルを終えて」

「第53回フェスティバル無事に開催することができ、おめでとうございませう。そして担当の先生方本番に「苦労様でした」。

「開催にあたり何度も何度も理事会で話し合いを行い、これでもかというほど対策を練りました。担当の先生方はどこか恐怖心とか不安を抱えていたのではないかと、頭の下がった思いです。私も受付を担当しましたが、主催者たちが必死の思いで計画を立て、今回はいつものフェスティバルとは違うというのを御父母様に手紙でお知らせしたり話をしてきましたにも拘わらず、一枚のチケットで二人入ろうとしたり、裏に連絡先を書きつけてきたり、コピーの子チケットを持って来たりというご家族がいました。こんなに皆が安全に会を催したいと思つているのだからと残念な思いがいたしました。

やはり、主催者側と観る側と心を二つにして開催できればどんなに楽しいだろうかと感じました。

「3回加枝舞踊研究所 小林和加枝フェスティバルが無事終わって」

「第53回フェスティバルが無事開催されたこと本当にうれしく思います。入口、客席、楽屋、舞台袖、すべてに完備な感染対策が施され、安心して舞台を終えることができました。これもひとえに埼玉県舞踊協会の理事の先生方のご尽力のたまものです。本当にありがとうございました。」



